

令和元年度（ 数学科 ） 授業改善推進プラン

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展的な指導計画
1 年	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の到達度を把握し、補充的学習を必要とする生徒について対応し、基礎的な学力の定着につなげる。 講義形式の授業に合わせて、体験的・問題解決学習を取り入れ、生徒の意欲向上を図る。 発展的学習を取り入れることにより、生徒の更なる学力向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 机間指導をできるだけ多くし、生徒の理解度を把握し、場合によっては補充的な説明を加えていく。 図形の授業においては、言語活動を取り入れ、生徒の興味を喚起するような教材・教具の工夫をする。 各単元の最後に発展的な問題を取り上げるようにし、数学的なものの見方や考え方のよさを感じさせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートの内容を個々の段階（基礎から発展）に合わせてるように工夫する。 理解しづらい部分については、板書などで工夫していく。 定期考査前、長期休業中に補充学習教室を実施し、基礎的な学力の定着を図る。
2 年	<ul style="list-style-type: none"> 講義形式の授業に合わせて、体験的・問題解決学習を取り入れ、生徒の意欲向上を図る。 生徒の到達度を把握し、補充的学習を必要とする生徒について対応し、基礎的な学力の定着につなげる。 発展的学習を取り入れることにより、生徒の更なる学力向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 確率の授業においては、体験的な活動を取り入れ、生徒の興味を喚起するような教材・教具の工夫をする。 机間指導を多くし、生徒の理解度を把握し、場合によっては補充的な説明を加えていく。 各単元の最後に発展的な問題を取り上げるようにし、数学的な物の見方や考え方のよさを感じさせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査前や長期休業中に補習を行うことによって、基礎的な学力の定着、発展的な学力の補充を図る。 各単元の最後にまとめの時間を多めに作り、個別に対応する時間を設ける。 授業内で得意な生徒に対しては、随時発展的な問題を提示していく。
3 年	<ul style="list-style-type: none"> 講義形式の授業に合わせて、体験的・問題解決学習を取り入れ、生徒の意欲向上を図る。 生徒の到達度を把握し、補充的学習を必要とする生徒について対応し、基礎的な学力の定着につなげる。 発展的学習を取り入れることにより、生徒の更なる学力向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 言語活動の授業を取り入れるなど、生徒の興味を喚起するような教材を工夫する。 机間指導を多くし、生徒の理解度を把握し、場合によっては補充的な説明を加えていく。 各単元の最後に発展的な問題を取り上げるようにし、数学的な物の見方や考え方のよさを感じさせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートの内容を、個々の段階（基礎から発展）に合わせてるように工夫する。 定期考査前や長期休業中に補習を行うことによって、基礎学力の定着を図る。 放課後の時間を利用して補習を行い、基礎学力の定着を図る。 授業内で得意な生徒に対しては、随時発展的な問題を提示していく。